

子供の伝染病

Children's infectious diseases

詳しくは最寄りの保健所、コミュニティヘルスセンター、薬局、医師にご相談ください

水ぼうそう *Chickenpox*

潜伏期間
2-3週間

症状
軽い発熱や鼻水の症状があり、ピンク色のぶつぶつした発疹が水疱となり、やがてかさぶたに変わる。妊婦や新生児が感染すると重症となる可能性もあり。

自宅養生の必要性
最初に発疹が現れてから5日間、水疱が全てかさぶたになるまでは外出を控える。

感染拡大の防止策
生後18カ月の幼児には予防接種あり。12才以上で免疫のない子供には接種が勧められる。

結膜炎 *Conjunctivitis*

潜伏期間
1-3日間

症状
目のかゆみや充血、涙目。起床時に目やにで目が開けにくくなることもあり。

自宅養生の必要性
目やにが出ている間は必要。

感染拡大の防止策
手をこまめに洗い、タオルを他の人と分ける。抗生物質を必要とする場合もあり。

胃腸炎 *Gastroenteritis*

潜伏期間
原因によって異なるが、数時間から数日間

症状
ゆるく水っぽい便、嘔吐、発熱、胃けいれん、頭痛が併発。

自宅養生の必要性
下痢がおさまってから最低24時間は必要。

感染拡大の防止策
トイレに行ったりおむつを交換したりした後や、食べ物を触る前には、水と石鹸で手をよく洗う。

風疹 (三日ばしか) *German measles (Rubella)*

潜伏期間
2-3週間

症状
症状は軽くおさまるか全くない場合もあり、軽い発熱、鼻水、リンパ節の腫れや、ピンク色のしみ状発疹が短期間で消える。ただし妊婦が感染した場合、子供に先天性異常がでる場合があるので注意が必要。

自宅養生の必要性
発疹が現れてから最低4日間は必要。

感染拡大の防止策
生後12カ月の幼児と4才児への予防接種 (MMR) あり。

子供の伝染病

Children's infectious diseases

腺熱

Glandular fever

潜伏期間

4-6週間

症状

発熱、頭痛、喉の痛み、倦怠感、リンパ節の腫れ。

自宅養生の必要性

気分が悪くならない限りは必要なし。

感染拡大の防止策

手をよく洗い、他人と飲食物を分け合ったり、同じ食器類を使わないこと。キスをしないこと。

手足口病

Hand, foot and mouth disease

潜伏期間

3-7日間

症状

症状の軽い病気で、発熱を伴ったり、口の周り、手足、おむつ着用部分に水疱ができる場合があります。

自宅養生の必要性

水疱が乾くまで必要。

感染拡大の防止策

特に鼻をかんだり、トイレに行ったり、おむつを換えた後にはよく手を洗うこと。

頭シラミ

Head lice

感染後卵がふ化するまでの期間

通常5-7日

症状

頭皮のかゆみ。髪の毛の付け根に白く小さな破片が付着。頭皮にシラミが見つかることもあり。

自宅養生の必要性

シラミ除去の治療を継続する限り必要なし。

感染拡大の防止策

家族、友人、クラスメートなど身近な者は検査を受け、感染の場合は治療を受ける。

A型肝炎

Hepatitis A

潜伏期間

約2-6週間

症状

小さい子供の場合は症状が出ない場合もあり。突然の発熱、食欲不振、吐き気、嘔吐、黄疸（皮膚や目が黄色味を帯びる）、暗色の尿、白っぽい便など。

自宅養生の必要性

発症後2週間ないしは、黄疸発生後1週間は必要。

感染拡大の防止策

手をよく洗う。周囲の人には免疫グロブリン注射が必要な場合もあり。人によっては予防接種が勧められる。

膿痂疹(とびひ)

Impetigo (school sores)

潜伏期間

1-3日間

症状

顔や手、頭皮などに小さな赤い斑点が出、その後膿をもつ水疱に変わり、やがて乾いてかさぶたになる。

自宅養生の必要性

治療を開始するまでは必要。ただれた箇所は防水包帯で覆う。

感染拡大の防止策

手をよく洗う。

インフルエンザ

Influenza

潜伏期間

1-3日間

症状

突然の発熱、鼻水、喉の痛み、咳、筋肉痛、頭痛。

自宅養生の必要性

気分が良くなるまで必要。

感染拡大の防止策

お年寄りや基礎疾患を有する者には、特に予防接種が勧められる。

子供の伝染病

Children's infectious diseases

はしか *Measles*

潜伏期間:

症状が現れるまでは約10-12日間、発疹までは約14日間。

症状

発熱、倦怠感、鼻水、咳、ただれ目が数日間続いた後、赤い斑点の発疹が顔からやがて全身に広がり、4-7日間続く。

自宅養生の必要性

発疹が現れてから最低4日は必要。

感染拡大の防止策

生後12カ月の幼児と4才児を対象とした予防接種(MMR)あり。接触のあった人で免疫のない者は、14日間は通学を禁じられる場合がある。

流行性髄膜炎 *Meningococcal disease*

潜伏期間

2-10日間

症状

突然の発熱と、頭痛、頸部の硬直、吐き気、嘔吐、眠気、発疹のうちいずれかの併発。

自宅養生の必要性

即時医師の検診を受けさせること。入院治療が必要。

感染拡大の防止策

周囲の人間は特殊な抗生物質を必要とする場合があり、上記の症状が表れた場合は、至急医師の検診を受ける。特定種の流行性髄膜炎に対するワクチン接種が生後12ヶ月の幼児全員に行われている。

流行性耳下膜炎(おたふくかぜ) *Mumps*

潜伏期間

14-25日間

症状

発熱、顎周辺の唾液腺の腫れと圧痛。

自宅養生の必要性

腫れが出はじめてから9日間は必要。

感染拡大の防止策

生後12カ月の幼児と4才児対象の予防接種(MMR)あり。

白癬 *Ringworm*

潜伏期間

不定(数日間の場合もあり)

症状

ピンク色の輪で囲まれた小さな鱗状の斑が皮膚に出る。

自宅養生の必要性

治療開始の次の日まで必要。

感染拡大の防止策

手をよく洗う。

かいせん *Scabies*

潜伏期間

初めての感染: 2-6週間

再感染: 1-4日

症状

夜間にひどくなる肌のかゆみ、特に手首、腋の下、おしり、股、足や手の指の付け根に強いかゆみ。

自宅養生の必要性

治療開始の次の日まで必要。

感染拡大の防止策

周囲の人間は感染していないか検査を受け、必要な場合には治療を受ける。過去2日間に使用したシーツ、タオル、衣服はお湯と洗剤でよく洗うこと。

猩紅熱 *Scarlet fever*

潜伏期間

1-3日間

症状

突然の喉の痛み、高熱、嘔吐。12-36時間後に発疹。

自宅養生の必要性

治療を開始後少なくとも24時間、子供の体調が回復するまでは必要。

感染拡大の防止策

手をよく洗う。接触のあった人で具合が悪くなった場合、医師の検診を受けること。

子供の伝染病

Children's infectious diseases

りんご病

(伝染性赤斑、第五病、パルボウイルスB19)

Slapped cheek (Erythema infectiosum, Fifth disease, Parvovirus B19)

潜伏期間

1-2週間

症状

症状の軽い伝染病。発熱、頬の紅潮、網状の発疹の他、咳、喉の痛み、鼻水を伴うこともある。妊婦が感染すると胎児に影響を及ぼす可能性もあるので、周りにいる子供が感染した場合には直ちに受診すること。

自宅養生の必要性

発疹が現われる時点では感染力は既に弱まっているので、自宅養生の必要はなし。

感染拡大の防止策

手をこまめに洗う、飲み物を人と分かち合わない等。

百日咳

Whooping Cough (pertussis)

潜伏期間

7-20日

症状

鼻水から始まり、その後しつこい咳の発作が続く。咳こむと嘔吐したり、ヒューという音をたてて息を吸い込んだりすることもある。

自宅養生の必要性

特殊な抗生物質の投与開始後5日は必要。

感染拡大の防止策

生後2、4、6、18カ月の幼児、4才児及び中高生を対象とした予防接種あり。患者とその周辺の者には特殊な抗生物質が与えられる。患者と接触があったが予防接種を受けていない子供は、特殊な抗生物質を服用しない限りは、託児施設に通うことができない。

寄生虫

Worms

潜伏期間:

数週間

症状

おしりのかゆみ。

自宅養生の必要性

必要なし。

感染拡大の防止策

手をよく洗う。同じ家で暮らすものは全員治療を受けること。過去2日間に使用したシーツ、タオル、衣服は、お湯と洗剤でよく洗うこと。